

# 一般質問 「老いの魔法使い」の老働カ活用 長命寿ぐ高齢社会のために

2月定例会中の3月11日、「高齢者対策」を共通テーマに、私が2025年問題と高齢者ボランティア、同じ会派の伊藤美都夫議員が認知症について、連続して一般質問しました。「2025年問題の解決には高齢者の皆様に『老いの魔法使い』になっていただき、『老働カ』を介護や教育の分野で活かすべきではないか」と提案したところ、平井知事、横濱教育長には賛同いただき、お泊りデイへのガイドライン設定の検討などを約束いただきました。

## 大震災から9年経って 高齢者に深刻な影響

登壇した3月11日は東日本大震災の発災から3年目。尊い命を奪われた1万5884人の御霊に哀悼の誠を捧げ、行方不明の2633人の皆様の帰宅を祈念して質問を始めました。復興庁によると、避難生活を苦に命を絶つなど震災関連死は3県で2973人を数え、その9割が65歳以上。

## 鳥取の高齢化10年先に進む ケアマネの独立が大事

要介護者は被災地域では軒塊の世代が75歳の後期高齢者となつて介護が必要となり、介護難民が街に溢れるのではないかという心配のことです。鳥取県の高齢化率の進展は全国平均より約10年先に進んでおり、若年

並み増加し、震災が高齢者の皆様に悲惨な状況に追い込んでいます。

層が社会流出している分、



本会議での一般質問



答弁する平井知事



答弁する横濱教育長

## シニア世代の教育、介護で活躍期待

樋口恵子さんは人生100年時代を豊かにするキーワードは、オズの魔法使いならぬ、老いの魔法使い

「シニア世代の教育、介護で活躍期待」の労働力と提言されている。元気なお年寄りの皆様にボランティアとして、介護や地域教育で活躍していただければ」と知事、教育長に所見を求めました。知事は「高齢者皆様に社会サービスの供給主体になっていただけでは、鳥取型の2025年問題解決の鍵になる」。教育長は「老いの魔

法使いの方々には私たちの想像以上に高いレベルの潜在力を持つておられる。教育現場に幅広く御協力いただきたい」と話されました。「ボランティア総合サイトにシニア人材バンクが設けられたが年半で登録者は83人。ネットだけでは無理がある」と指摘すると、知事は「新設された県民活動支援センターと共に改善したい」と約束されました。

## 20日以上のお泊りデイ 県内に250人から300人

平井知事は「都会の2025年問題は急激な高齢化が本質だが、鳥取では生産人口が少ない、あるいは高齢者の単身世帯が多いことから急いでセーフティネットを構築しなければならいことの本質が違う」と述べ、「福祉施設の状態を調査中。お泊りデイは旅館業として対応してるが、今後、ガイドラインを設定したい」と話されました。福祉保健部長は「月間20日以上お泊りデイをしている高齢者は県内で250人〜300人と思われる」と衝撃的な数字を挙げられました。

深刻になるのではないかと知事の認識を尋ねました。全国と同様、県内でも大半のケアマネージャーが施設に所属し、過剰なケアや不必要なケアがケアプランに組み込まれ、競争の激化と相まってデイサービスでお泊りデイ、ショートステイや小規模多機能で長期の連泊が常態化していないかと質問しました。